

三十五 鹿児島

鹿児島に初めて行ったのは昭和十年でありました。清浦奎吾伯爵から鹿児島ご出身で内務大臣をなさった政友会（後の自民党）の代表政治家、床次竹二郎さんにご紹介していただき、更に床次さんから鹿児島市長さんにご紹介していただいて出かけたのでした。行って見ると、ここは西郷南洲翁の誕生の地、ここは大久保利通卿の誕生の地、ここは東郷平八郎元帥の誕生の地、ここは誰々の誕生の地といつて記念碑が町中のいたるところに建っており、鹿児島は偉人の町、歴史の町だという感じがしたものでした。希望に燃える若者にとつては、実に発奮、奮起せざるを得ないような環境の町でした。私の宿舍の裏はすぐ城山でときどき登ったのでした。城山といえば西郷さんが最後にたてこもった山で有名、わずか百メートルぐらいかと思われる小高い山ですが、頂上まで広い道がついており、両側には大きな木が茂っていました。この道は西郷さんはもちろん、鹿児島出身の偉人たちが登られた道かと思うとまことに感慨無量でした。

各学校などで講演している間に、鹿児島新聞社主催で講演会が催されることになりました。私はこの講演会ではぜひ学生の速記実演を見せたいと思い、鹿児島商業に力を入れて練習を指導したのでした。講演会は非常な盛会で、学生達の実演は喝采を博しました。講演会が終わってから学生達と旅館に引きあげて来たのですが、その途中でミカンを買ったのです。ふろしきがなかったので私のオーバーをぬいでひろげ、